

ノリ養殖環境速報 KH-01-14 (播磨灘)

令和2年3月13日 発行

調査年月日 : 令和2年3月12日

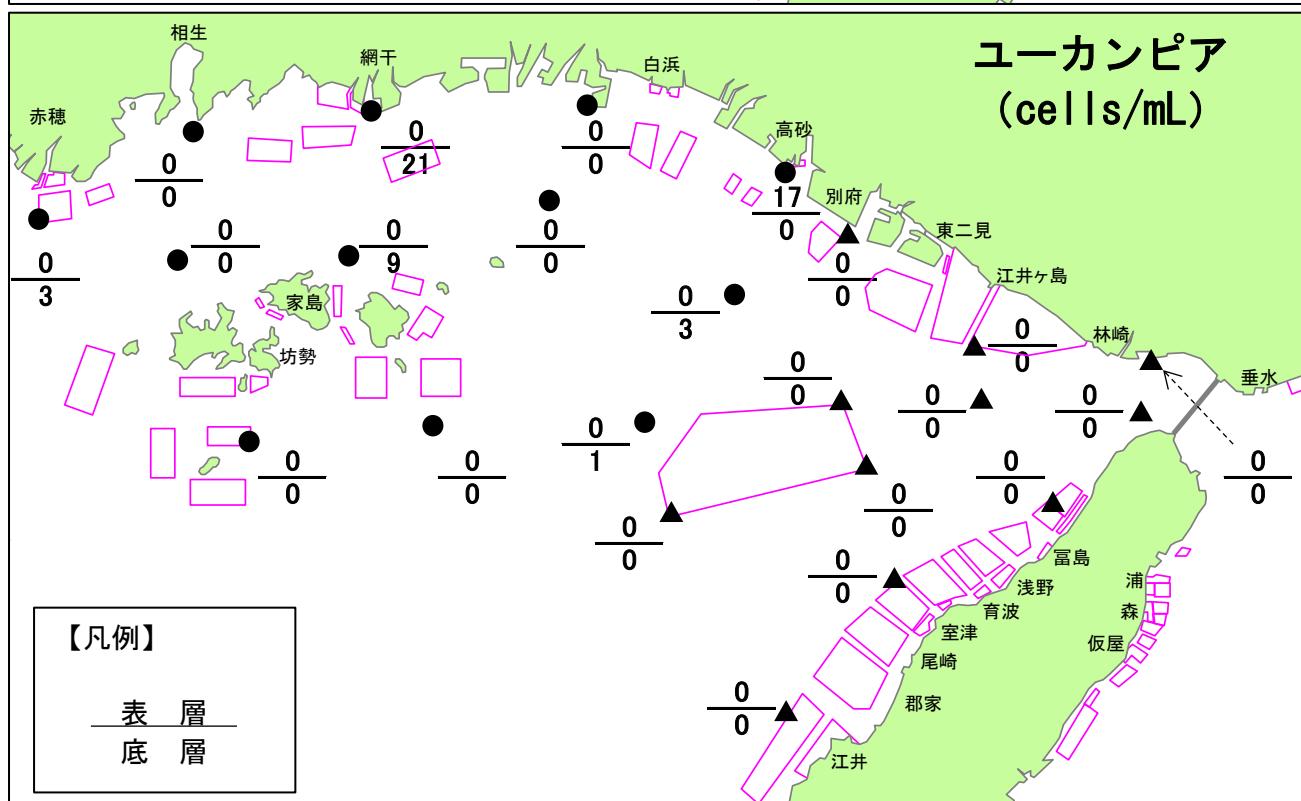
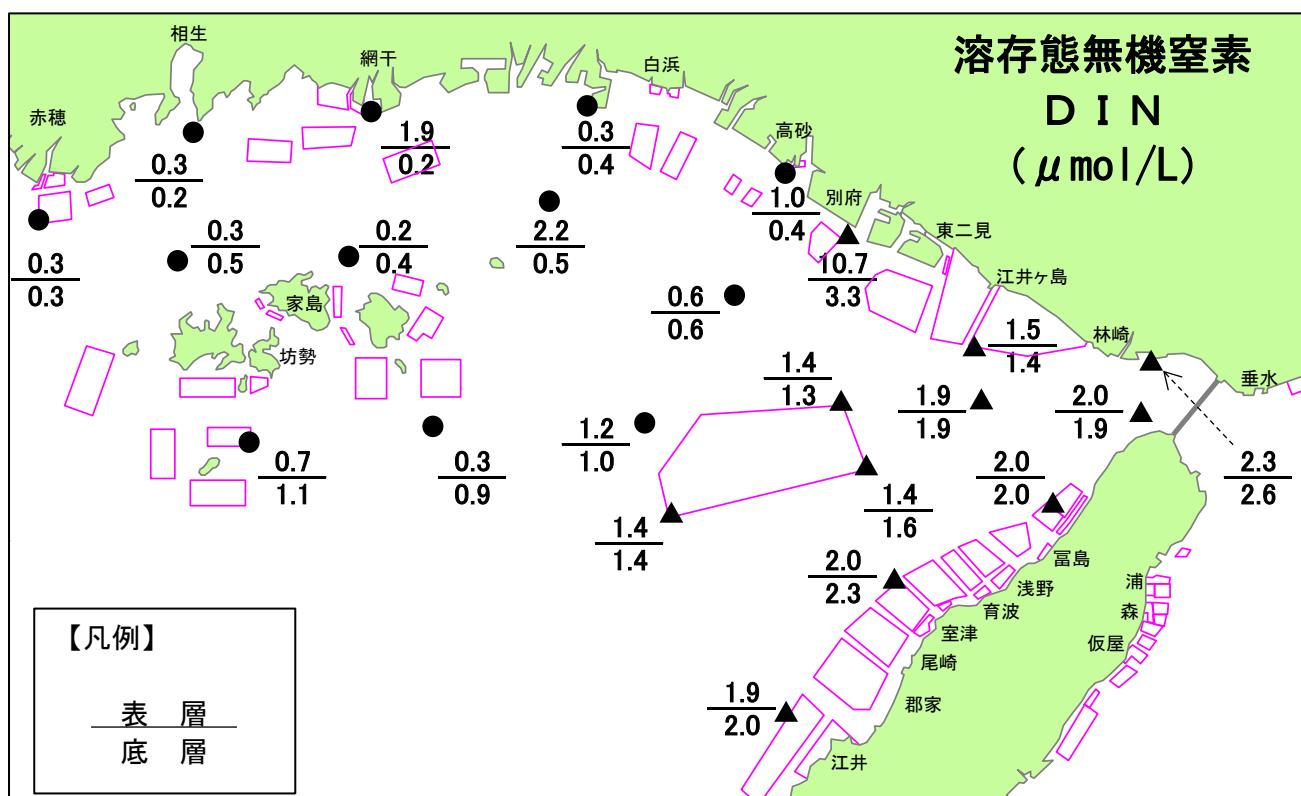
[調査箇所は地図上に● (西部) および▲ (東部) 印で表示しています。]

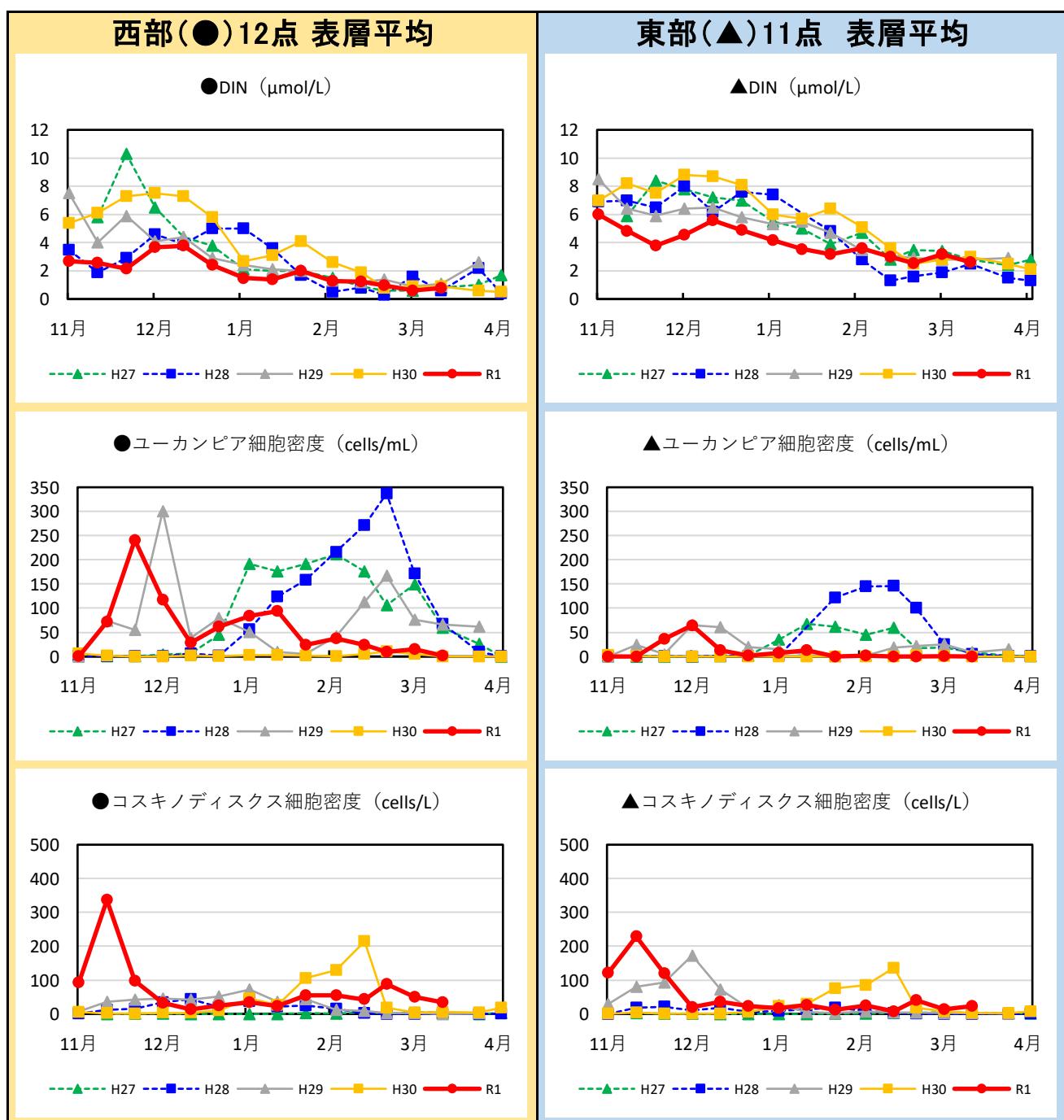
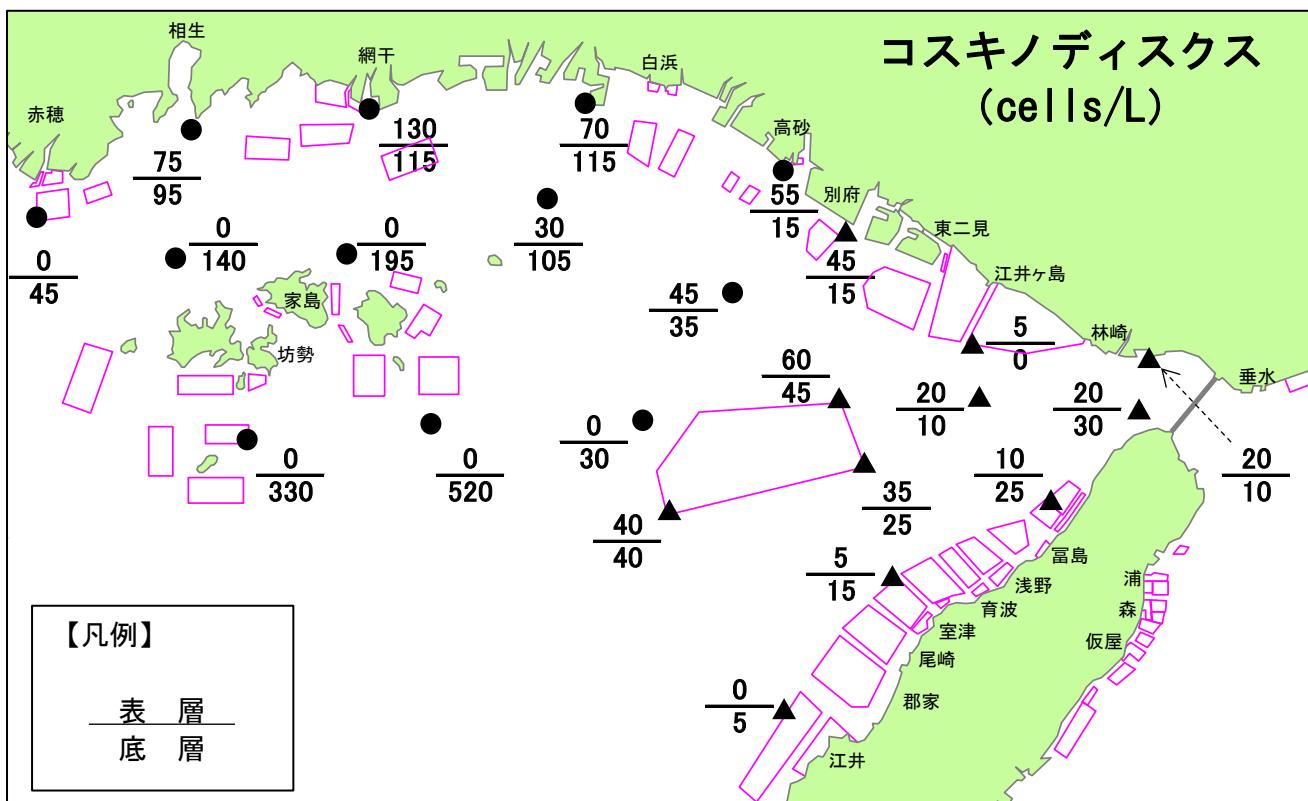
概況

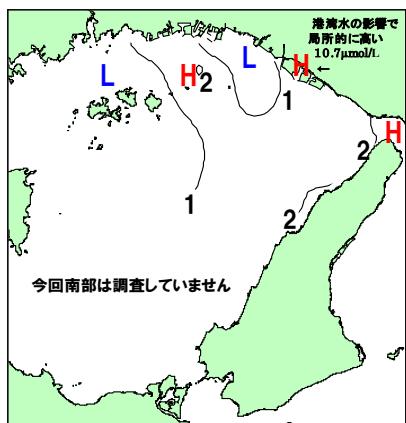
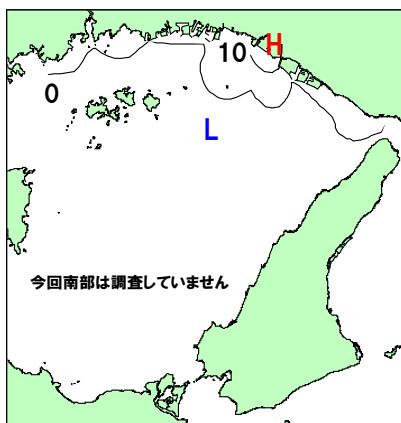
播磨灘北部（調査海域）の表層DIN濃度は、西部では $0.2\sim2.2\mu\text{mol/L}$ 、東部では $1.4\sim10.7\mu\text{mol/L}$ で推移しています。北西部沿岸および家島諸島周辺海域では概ね $1.0\mu\text{mol/L}$ 以下と、とても低い値になっています。

大型珪藻のユーカンピアはほとんど見られなくなりました。播磨灘全域の底層に多く発生していたコスキノディスクスも減少傾向です。

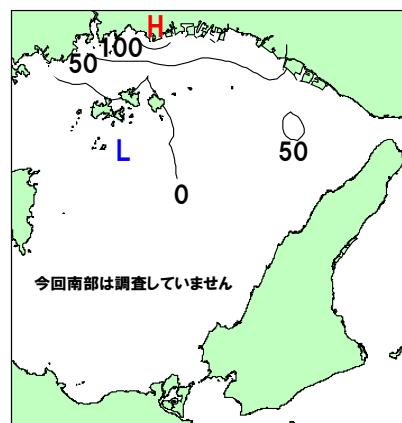
水温は、白浜以西では $10.7\sim11.2^\circ\text{C}$ 、家島諸島周辺では $10.5\sim11.6^\circ\text{C}$ 、江井ヶ島・高砂周辺で $10.9\sim11.2^\circ\text{C}$ 、明石海峡付近並びに西浦では $11.3\sim11.4^\circ\text{C}$ 、鹿ノ瀬周辺では $11.1\sim11.3^\circ\text{C}$ でした。





DIN濃度 ($\mu\text{mol/L}$)

ユーカンピア (cells/mL)



コスキノディスクス (cells/L)

令和2年3月12日の水平分布状況(表層、実測値)

(**H**は濃度又は密度が高く、**L**は低いことを示しています。)

播磨灘における今後の栄養塩等に関する動向見込み

表層のDIN濃度は、北部沿岸の港湾と明石海峡付近で高く、播磨灘沖合の広い範囲で1.0 $\mu\text{mol/L}$ 前後と低い値でした。

北西部海域で多く発生していたユーカンピアはほとんど見られなくなりました。大型珪藻のコスキノディスクス・ワイレシーは播磨灘の広い範囲（特に底層）で多く発生していましたが、減少傾向です。

大阪管区気象台の週間天気予報では、降水量は平年並みとされていますが、海域全体の短期的な栄養塩濃度の推移は現状維持程度と考えられます。

週間天気予報 気象庁 3月13日10時37分発表 ※気象庁ホームページより転載

向こう一週間の近畿地方は、低気圧や寒気、湿った空気の影響で雲が広がりやすく、雨または雪の降る日があるでしょう。

最高気温と最低気温はともに、期間の前半は平年並か平年より低い日が多く、期間の後半は平年より高い日が多いでしょう。

降水量は、平年並の見込みです。

他の情報

- 岡山県の情報は3/2に、香川県の情報は3/4に更新されています。
- 他県の調査については、以下のURLから参照してください。

岡山県：<http://www.pref.okayama.jp/page/579394.html>

香川県：<https://www.pref.kagawa.lg.jp/suisanshiken/jyouhou.htm>

【参考】栄養塩の単位: $\mu\text{mol/L} = \mu\text{g-at/L} = \mu\text{M}$

【今後の予定】

- 令和2年4月上旬まで毎月3回程度（上・中・下旬）の発行を予定しています。
- 次回は令和2年3月24日頃に発行する予定です。

※この情報は、水産技術センターホームページ (<http://www.hyogo-suigi.jp/>) でもご覧いただけます。